

013 イエス、誕生後の 40 日間

ルカによる福音書 2 : 21~38

▶ 神殿で献げられる (ルカによる福音書 2 : 21~38)

21 八日たって割礼の日を迎えたとき、幼子はイエスと名付けられた。これは、胎内に宿る前に天使から示された名である。

→割礼：生後八日目に男児の性器の包皮を切り取る儀式 (創世記 17 : 9~14、レビ記 12 : 3)。

→イエス：ヨシュア (ヘブライ語) = 主は救い

22 さて、モーセの律法に定められた彼らの清めの期間が過ぎたとき、両親はその子を主に献げるため、エルサレムに連れて行った。

→40 日間 (出産した女性への恵みの期間) の流れ

①清めの期間が過ぎたとき：ユダヤ人女性は出産後、7 日間、宗教的に汚れる (→儀式的な汚れ) とされた (レビ記 12 : 1~8)。

②8 日目 (→新生児が最も免疫力があるとされる) に割礼を施す。

女性が男児を出産した場合、七日間家に留まらなければならず、八日目に男児は割礼を受けた。

③その後、母親は更に 33 日間家に留まった。一連の社会生活から離れた期間が終わった後、再び清い状態に戻るため神に犠牲をささげた (2 : 24)。

23 それは主の律法に、「初めて生まれる男子は皆、主のために聖別される」と書いてあるからである。

→初めて生まれる男子：初めて生まれる男子は神のものである (出エジプト記 13 : 2、13 : 12、34 : 19)。

24 また、主の律法に言われているとおりに、山鳩一つがいか、家鳩の雛二羽をいけにえとして献げるためであった。

→レビ記 12 : 6~8

25 そのとき、エルサレムに (預言者) シメオン という人がいた。この人は正しい (敬虔な) 人で信仰があつく、イスラエルの慰められるのを待ち望み、聖霊が彼にとどまっていた。

26 そして、主が遣わすメシアに会うまでは決して死なない、とのお告げを聖霊から受けていた。

27 シメオンが“霊”に導かれて神殿の境内に入って来たとき、両親は、幼子のために律法の規定どおりにいけにえを献げようとして、イエスを連れて来た。

28 シメオンは幼子を腕に抱き、神をたたえて言った。

→シメオンの賛歌 (2 : 29~32) はラテン語訳の冒頭部をとって、ラテン語で「ヌンク・ディミッティス」 (今こそ私を去らせてください) とも呼ばれている。

<シメオンの賛歌> (ルカによる福音書 2 : 29~32)

29 「主よ、今こそあなたは、お言葉どおり／この僕を安らかに去らせて (→死なせて) くださいます。

30 わたしはこの目であなたの救いを見たからです。31 これは万民のために整えてくださった救いで、

32 異邦人を照らす啓示の光、／あなたの民イスラエルの誉れです。」

→異邦人を照らす啓示の光：シメオンの賛歌はイザヤ書 42 : 6、49 : 6、52 : 10 に言及している。また、パウロとバルナバは、自分たちが全世界の異邦人へイエスの言葉を宣べ伝え、イエスの御業を実行するため選ばれたのだと言及する (使徒言行録 13 : 46、47)。

→人は死に臨んでも喜ぶことができる。

→最後の敵 (パウロ) →コリントの信徒への手紙一 15 : 54b~55

「死は勝利にのみ込まれた。死よ、お前の勝利はどこにあるのか。死よ、お前のとげはどこにあるのか。」
 →エリサベトの歌（1：42～45）、マリアの賛歌（1：46～55）、ザカリアの歌（1：68～79）

【参考】聖書に登場する「シメオン」

タイトル(書名)	章:節 聖句 [検索対象総数: 9 / 聖句等の総数 33250 (シメオン)9個]	聖書Navi Active 393128091 (新共同訳) [検索語彙: シメオン]
S ルカによる福音書	2:25 そのとき、エルサレムにシメオンという人がいた。この人は正しい人で信仰があつく、イスラエルの慰められるのを待ち望み、聖霊が彼にとどまっていた。	
S ルカによる福音書	2:27 シメオンが“霊”に導かれて神殿の境内に入って来たとき、両親は、幼子のために律法の規定どおりにいけにえを献げようとして、イエスを連れて来た。	
S ルカによる福音書	2:28 シメオンは幼子を腕に抱き、神をたたえて言った。	
S ルカによる福音書	2:34 シメオンは彼らを祝福し、母親のマリアに言った。「御覧なさい。この子は、イスラエルの多くの人を倒したり立ち上がらせたりするために定められ、また、反対を受けるしるしとして定められています。	
S ルカによる福音書	3:30 シメオン、ユダ、ヨセフ、ヨナム、エリアキム、	
S 使徒言行録	13:1 アンティオキアでは、そこの教会にバルナバ、ニゲルと呼ばれるシメオン、キレネ人のルキオ、領主ヘロデと一緒に育ったマナエン、サウロなど、預言する者や教師たちがいた。	
S 使徒言行録	15:14 神が初めに心を配られ、異邦人の中から御自分の名を信じる民を選び出そうとなされた次第については、シメオンが話してくれました。	
S ペトロの手紙Ⅱ	1:1 イエス・キリストの僕であり、使徒であるシメオン・ペトロから、わたしたちの神と救い主イエス・キリストの義によって、わたしたちと同じ尊い信仰を受けた人たちへ。	
S ヨハネの黙示録	7:7 シメオン族の中から一万二千人、/レビ族の中から一万二千人、/イサカル族の中から一万二千人、	

33 父と母は、幼子についてこのように言われたことに驚いていた。

34 シメオンは彼らを祝福し、母親のマリアに言った。「御覧なさい。この子は、イスラエルの多くの人を倒したり立ち上がらせたりするために定められ、また、反対を受けるしるしとして定められています。
 35——あなた自身も剣で心を刺し貫かれます——多くの人の心にある思いがあらわにされるためです。」

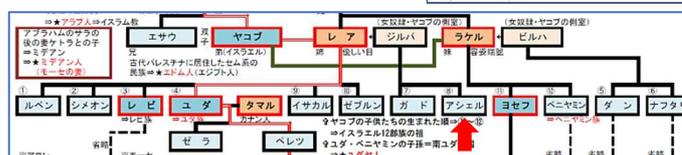
36 また、アシェル族のファヌエルの娘で、アンナ（＝ハンナ：ヘブライ語）という女預言者（最初の伝道者）がいた。非常に年をとって、若いとき嫁いであら七年間夫と共に暮らしたが、37 夫に死に別れ、八十四歳になっていた。彼女は神殿を離れず、断食したり祈ったりして、夜も昼も神に仕えていたが、
 38 そのとき、近づいて来て神を賛美し、エルサレムの救いを待ち望んでいる人々皆に幼子のことを話した。



→アンナ：預言者アンナとその父ファヌエルの詳細については不明である。

アシェル族は、イスラエル十二部族の一つで、ヤコブの12人の息子の一人アシェルから名付けられた（創世記30：12、13）。

→断食：ユダヤ人は食事を断つことがあり、これは、神への熱き思いを示し、自らの罪を悔いる行為として行われた。



【参考】待ち望んで(旧約)

K	詩編	119:43 真実をわたしの口から奪わないでください。あなたの裁きを待ち望んでいます。
K	詩編	119:74 あなたを畏れる人はわたしを見て喜びます。わたしが御言葉を待ち望んでいるからです。
K	箴言	10:28 神に従う人は待ち望んで喜びを得る。神に逆らう者は期待しても裏切られる。
K	ダニエル書	12:12 待ち望んで千三百三十五日に至る者は、まことに幸いである。

【参考】待ち望んで(新約)

S	マルコによる福音書	15:43 アリマタヤ出身で身分の高い議員ヨセフが来て、勇気を出してピラトのところへ行き、イエスの遺体を渡してくれるようにお願いした。この人も神の国を待ち望んでいたのである。
S	ルカによる福音書	2:38 そのとき、近づいて来て神を賛美し、エルサレムの救いを待ち望んでいる人々皆に幼子のことを話した。
S	ルカによる福音書	3:15 民衆はメシアを待ち望んでいて、ヨハネについて、もしかしたら彼がメシアではないかと、皆心の中で考えていた。
S	ルカによる福音書	23:51 同僚の決議や行動には同意しなかった。ユダヤ人の町アリマタヤの出身で、神の国を待ち望んでいたのである。
S	ローマの信徒への手紙	8:19 被造物は、神の子たちの現れるのを切に待ち望んでいます。
S	ローマの信徒への手紙	8:23 被造物だけでなく、“霊”の初穂をいただいているわたしたちも、神の子とされること、つまり、体の贖われることを、心の中でうめきながら待ち望んでいます。
S	コリント信徒への手紙 I	1:7 その結果、あなたがたは賜物に何一つ欠けるところがなく、わたしたちの主イエス・キリストの現れを待ち望んでいます。
S	ガラテヤの信徒への手紙	5:5 わたしたちは、義とされた者の希望が実現することを、“霊”により、信仰に基づいて切に待ち望んでいるのです。
S	ペトロの手紙 II	3:13 しかしわたしたちは、義の宿る新しい天と新しい地とを、神の約束に従って待ち望んでいるのです。